

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：貿易統計（5月）

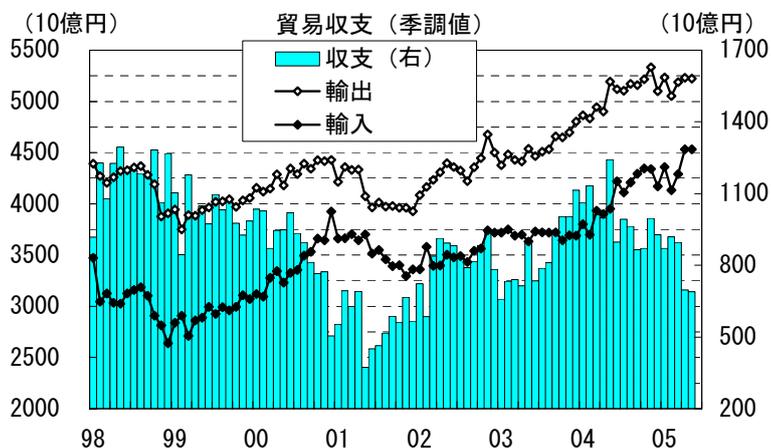
発表日：6月22日（水）

～ 輸出の伸び悩みが続く ～

(No. J-47)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 新家 義貴



(出所：貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
04年5月	1243	5193	3950	936
6月	897	5118	4221	1141
7月	992	5103	4111	1129
8月	963	5171	4208	573
9月	865	5160	4295	1213
10月	872	5218	4346	1154
11月	996	5335	4339	597
12月	928	5099	4171	1133
05年1月	872	5233	4361	194
2月	919	5052	4133	1090
3月	896	5186	4291	1119
4月	697	5229	4532	959
5月	690	5222	4532	297

(出所：貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
04年 1月	11.3	▲ 1.7	13.1	0.4	11.1	20.2	1.1	▲ 4.4	5.7	▲ 6.4	2.1	8.3
2月	10.2	▲ 1.6	12.1	5.9	8.7	10.2	▲ 0.8	▲ 3.6	3.0	▲ 5.2	5.2	5.3
3月	13.2	▲ 0.8	14.1	7.2	14.3	12.6	12.4	▲ 4.3	17.5	10.9	17.0	21.2
4月	10.8	▲ 2.1	13.2	4.0	6.3	14.6	6.6	▲ 3.2	10.2	▲ 1.0	4.8	11.9
5月	10.0	▲ 0.6	10.6	▲ 4.8	7.9	11.2	5.0	5.3	▲ 0.3	▲ 7.1	4.7	4.6
6月	19.4	1.3	17.9	12.3	18.8	19.3	15.5	5.1	9.9	4.3	12.2	12.4
7月	14.3	1.0	13.2	6.0	11.4	15.7	8.4	4.5	3.7	▲ 0.2	4.6	7.0
8月	10.5	▲ 0.5	11.1	5.1	7.7	11.8	18.7	4.9	13.1	23.1	6.1	14.8
9月	12.1	0.5	11.5	7.2	4.7	16.5	12.5	8.5	3.7	17.1	▲ 2.7	8.8
10月	11.7	7.0	4.3	▲ 3.7	1.2	7.9	12.7	12.1	0.6	40.7	▲ 5.4	▲ 2.2
11月	13.4	7.6	5.3	2.8	3.1	13.6	28.1	11.8	14.6	10.6	11.8	16.0
12月	8.8	5.9	2.7	0.5	3.2	6.8	11.1	8.1	2.8	16.6	▲ 0.3	4.5
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.2	▲ 14.6	▲ 1.5	11.4	8.7	2.5	▲ 0.5	4.2	4.9
2月	1.7	6.1	▲ 4.2	2.3	▲ 6.7	▲ 3.7	11.4	6.6	4.5	4.5	▲ 3.4	12.2
3月	6.1	4.9	1.1	3.4	▲ 9.2	1.0	7.7	6.0	1.6	▲ 1.2	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.8	▲ 2.5	▲ 1.9	12.8	13.5	▲ 0.5	▲ 4.2	2.5	2.7
5月	1.4	4.0	▲ 2.4	1.9	▲ 7.9	▲ 4.7	18.6	9.2	8.6	6.2	3.4	11.0

○ 輸出低迷と原油高によって予想下振れ

2005年5月の貿易黒字額（原数値）は2,970億円（前年比▲68.3%）と、市場予想（コンセンサス4,827億円、レンジ2,652～10,000億円）を大きく下回った。輸出金額が前年比+1.4%と前月から鈍化する一方で、輸入金額は同+18.6%と大幅に増加した。「世界的な景気減速に伴う輸出の伸び悩みと原油価格上昇による輸入額の増加」という構図が鮮明となっている。こうした状況にはしばらく変化はみられないと予想されることから、貿易黒字は当面縮小傾向で推移すると思われる。

○ 伸び悩む輸出

実質輸出（輸出額／輸出物価、季節調整は当社）は、季調済前月比▲3.6%（4月同▲0.4%）と比較的大

きな減少となった。輸出数量も2ヵ月連続で前年割れとなるなど、輸出は予想対比でやや弱めの結果となっている。3ヵ月移動平均ベースで見れば横這い圏内での推移を続けていることから、足元で輸出が減少傾向にあるとまでは言えないが、少なくとも伸び悩み状態から脱する兆しはまだ見えていない。来週公表される鉱工業生産は予測指数は、前月比▲2.3%と減少が予想されているが、今月の輸出の弱さからすると、それをさらに下回る可能性も出てきた。生産の早期回復期待に水を差す結果になる可能性がある。

5月の中国向け輸出が前年比▲0.1%となるなど、特に目立つのが中国向けの不振だ。中国向けが前年割れとなるのは、旧正月要因で落ち込んだ2005年2月を除けば、2001年12月以来のことになる。中国は現在も高成長を続けているのだが、昨年、需要の伸び以上に輸入や生産がなされた結果、過剰在庫が多く存在する状況にある。この在庫調整の影響によって日本からの中国向け輸出が低迷していると考えられる。財別でいえば、設備投資関連の一般機械、また、化学や鉄鋼などの素材関連などの落ち込みが目立っている。この在庫調整に目処がつくには今しばらく時間がかかるとみられることから、当面は中国向け輸出に大きな期待はできないだろう。

また、期待されていたIT関連財に関しても、5月は全般的に低調な結果となった。北米半導体製造装置BBレシオの改善や在庫調整の進展など、IT関連財では明るい兆しも散見されるのだが、まだ足元で輸出が増加するまでの状況には至っていないようだ。

輸出に5～6ヵ月程度先行する傾向のあるOECD景気先行指数や米国ISM製造業新規受注といった指標も足元までに明確な改善はみられておらず、先行きの輸出も伸び悩むことが示唆されている。輸出回復の時期は、中国の在庫調整に目処がつくと見込まれる10-12月期以降と考えられる。それまでは、輸出は一進一退の状況が続くだろう。

○ 4-6月期の外需寄与度はプラス見込み

SNAでは、財の輸出入だけでなくサービス輸出入も加味して計算されている。これと同じ方法で計算したところ、5月の実質輸出は前月比▲1.4%(4月同+0.9%)、実質輸入は同+2.1%(4月同▲2.9%)となった。この結果、4、5月平均の対1-3月期比は、実質輸出が+2.3%、実質輸入が▲0.5%となり、外需寄与度は+0.4%ポイントとなる。1-3月期に減少した反動が出たことから輸出が増加する一方で、景気が未だ踊り場を脱せていないことを反映して輸入が低迷した模様だ。6月分の結果が反映されればプラス寄与度合いは若干縮小するとは思われるが、少なくとも、4-6月期の外需寄与度は4四半期ぶりにプラスとなる可能性が高そうだ。

2000年=100 実質輸出 (世界全体、季節調整値)



2000年=100 実質輸出 (中国向け、季節調整値)

